

文芸部雑記

浜名 新

2009年新年会 総会 銀座、高松)で、「医家芸術」の存続と、

機関紙発行は季刊と文芸特集号」のみとし、伝統的な各ク

ラブは存続と決定されました。印刷方法を工夫するとコストは大幅に減少したそうです。再生委員の先生方のご努力の賜物でしょう。

また、インターネット時代に即応し、機関紙「医家芸術」の「ネット」化が図られ、「ネット」上で作品の内容を閲覧できるようになり、2009年9月の衆議院選挙で国民が選択した「政権交代」に匹敵する画期的な進化とい

えるでしょう。

私が文芸部に多少とも貢献したのは、創作原稿の超過分の掲載料を支払ったときかもしれない。掲載料に關し以前と比較すると格段とコストダウン。現在、1頁分の負担金が2000円(詩、短歌など)〜2500円。世の中の流れはデジタル化なので、「下げましょう」と宣言されるとありがたい

作品発表と評価の機会確保

ですが……。

秋季号に載った文芸特集号の作品は随想 評論11編、詩和歌 川柳5編、創作3編(うち連載2編)、創作落語1編、戯曲1編で、総頁数は約200ページです。書き手の渾身の自身の濃い作品が期待されます。「一人妻 繁盛記」の古賀先生のお名前が見当たらないのはさびしい限り。作品を仕上げるご自身の個性を磨ければと、

私は勝手に想像しています。

気ぜわしい臨床と日常のなかで、なにかの刺激で書きたい(随想・小説、詩歌、川柳、俳句和歌)、描きたい(絵画、書道)、撮りたい(写真)、謡いたい弾きたい(邦楽)、音楽したい演奏、歌唱(ことに目覚められ、衝動的に実行)にのめりこみ、継続した場合、出来あがった作品を発表し、評価

してもらつ「機会」があります。作品を発表する「機会」が確保されていることは、「医家

芸術」会員の誇れる点でしょう。また、会員は他のクラブの展覧会や演奏会を無料で楽しむこともできます。

会員の年齢分布を見ますと、高齢化は避けられず、退会する会員を上回る、若い世代の元氣潑刺な趣味人を入会させる妙案とは、

会員におかれましては、生きがいを手元に、お気に入りの作品で、読者を楽しませてください。